

## 実効線量当量

### 実効線量当量 じっこうせんりょうとうりょう

臓器または組織（以下組織）がある量の放射線照射を受けるとき、それぞれが受ける異なった影響を、全身的な共通の尺度で実効的な線量当量（生物的な効果を考慮した値：単位はSv）に換算して健康障害を評価する方法。ある組織Tが放射線照射を受ける場合に癌や遺伝的影響のような障害（リスク）が発生する確率は、その組織における線量HTに比例すると仮定される。不均等照射の場合は組織の受けた線量HTと特有の感受性に基づく比例定数（組織荷重係数WT）を使用し、組織が放射線照射を受けたためのリスクを算出し、放射線を受けた全組織について足し合わせることで、全身に対する実効的な線量当量（HE）が算出される。ICRPの1990年勧告では、同一内容に実効線量という語を使用している。 $HE = \sum WT * HT$

---

<登録年月>

1998年01月

---

---